

国語科学習指導案

授業者 福岡中学校 教諭 阿部 伸泰

- 1 日時 平成22年11月2日(火) 5校時
- 2 学級 3年3組 男子20名 女子19名 計39名 第3校舎1階
- 3 主題 説得力のある意見文を書こう
～「生き物として生きる」の論理構成を参考にして～

4 主題について

(1) 教材について

学習指導要領の第3学年B書くことの指導事項にはイとして「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。」とあり、これは、第2学年の「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」を受けている。「生き物として生きる」は、「便利」「作る」などという日常語の裏に隠された考え方を探ることから、生命倫理にかかわる深い問題を提起している。筆者は、自分の主張や提案について、その効果、現実性、根拠の正確性などを検証することを通して、意見の説得力を高めるための方法を提示している。また、意見文全体の構成として、主張の述べ方、現状認識の示し方、具体的な提案、提案のよい点や提案の問題点と解決策などの具体的な文章構成の在り方を提示しており、緻密な論理の組み立て方を学ぶのにふさわしい教材といえる。

(2) 生徒について

学級全体としては、明るい雰囲気があり、教師の発問に対する反応もよい。しかし、問題意識を持って物事を見つめたり、難しい課題に積極的に挑戦したりする生徒は多くはない。また、自分の考えを交流し合うことに消極的な様子も見受けられる。

説明文については2年生の教材「モアイは語る—地球の未来」の学習を通して、筆者の意見をとらえ、根拠を明らかにした意見の伝え方について学んだ。しかし、学習内容の定着に関して、教研式学力検査で、論理の展開や文章の特徴を把握する力がやや不足しているという結果が出た。

そのことから、本単元では「生き物として生きる」の論理構成を参考にしながら、必要な情報を集めて編集し、説得力のある文章をまとめる学習活動を展開することで、論理の展開や文章の特徴を把握する力を定着させていきたい。既習の「新聞の特徴を生かして書こう」で、意図を持って情報を編集し発信する学習を経験していることから、今回の学習にも意欲的に取り組むことができると思われる。

(3) 指導について

本単元では、まず最初に、論理構成の工夫を施した明確な意見文の書き方について学ばせる。そして、意見文を書くための素材として、生きることと科学技術についての情報に触れさせ、考え方を広げさせる。課題意識を持たせた上で、教材文「生き物として生きる」を読ませ、説得力のある論理展開の在り方を確認させつつ、筆者の主張と自分の考えを照らし合わせて、自分の立場を明らかにさせていく。

後半の意見文を書く学習では、まず筆者の主張を受けながら自分の主張を述べて立場や意見を明確にし、次に根拠を示し、その上で、具体的な提案を述べるという構成の基本を身につけさせたい。また、提案のよい点だけでなく問題点も示し、それに対する解決策を示すなど、論の説得力を高める方法についても学ばせていきたい。

また、研究副主題「よく考え、伝え合う活動を通して」に関わって、「よく考えている状態」を可視化し、伝え合い活動を分かりやすくする工夫を意識した指導を心掛けたい。

5 単元の指導計画と評価計画（別紙参照）

6 本時の指導

(1) 本時の目標

B 書くこと イ

論理の展開を考え、資料を適切に引用するなどして、工夫して編集することができる。

《関連する指導事項》

B 書くこと ア

(2) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	・意見を支える根拠を資料から選び、進んで意見交流をしている。
書くこと	・目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集している。 ・論理の展開をわかりやすくするために文章構成を工夫している。

7 本時の指導の構想

(1) 本時の指導の構想及び留意点

「生き物として生きる」の筆者は、生き物である野菜や食べ物、さらには、人間の誕生に関わっても思いどおりに作ろうとする考え方の妥当性を問い、「思いどおりにしたいという気持ちには歯止めをかける必要がある。」と主張している。前時に筆者のこの主張に対する自分の立場と文章の構成のしかたについて決めさせておく。

さらに、より効果的に、説得力をもって自分の主張を伝えるために、根拠となる具体例に何を選び、どこに、幾ついれるかなども考えさせておく。ここでは、根拠となる具体例として「生きることと科学技術についての情報」（野菜の通年栽培、男の子と女の子の産み分け、遺伝子組み換え作物、クローン技術、iPS細胞による再生医療等について、それぞれの功罪を示した物）を資料として提示する。

本時は、同じ立場の者でグループを作り、選択した根拠となる具体例の妥当性や構成の工夫について検討させる。その際、具体例を示した短冊を実際に動かすことによって、文章構成の変容を視覚的に確かめながら話し合いが進められるようにする。

一通り構成案ができた段階でいくつかのグループの検討結果を発表させ、構成の工夫等について交流させる。それを受けて、もう一度グループ内で再検討する時間を設け、構成案の練り直しをさせ、次時の構成案をもとにして意見文を実際に書く活動につなげさせたい。

なお、意見文の条件については、以下の通りである。

意見文の条件

- ① 字数は600字以内とする。
- ② 構成のしかたとして頭括式、尾括式、双括式のいずれかを選択する。
- ③ 立場は次の四つの中から選ぶようにする。
 - A 筆者の主張に賛成し、さらに別の根拠や理由を付け足す。
(生き物を「作る」ことはもう止めるべきである。)
 - B 筆者の主張に賛成するが、一部に別の意見を持ち、その根拠や理由を述べる。
(一部は仕方ないが生き物を「作る」ことは止めるべきだ。)
 - C 筆者の主張の一部に賛成し、ほかには反対の立場を取って、その根拠や理由を述べる。
(やり過ぎはいけませんが生き物を「作る」ことは必要だ。)
 - D 筆者の主張に反対し、その根拠や理由を述べる。
(生き物を「作る」ことはこれからの生活に必要なである。)

(2) 「よく考え、伝え合う活動」について

「生き物として生きる」の筆者の主張に対する立場を決める。同じ立場の者同士で小グループを作り、自分の意見に説得力を持たせるために必要な情報と構成のしかたについて検討させる。その際、具体例を示した短冊を動かしながら取り組むことで、話し合いの内容についてグループ内で共通認識を持ちながら伝え合いができるようにしたい。根拠の妥当性のほかに、文章構成の工夫についても互いの意見交流で考えを深めさせたい。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	よく考え、伝え合う活動を通してねらいにせまるための手だて	
		評価の視点・方法	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 前時は筆者の主張に対する自分の立場と構成のしかたを決めたことを確認する。</p> <p>2 学習課題を把握する。</p>		1 前時のプリントで確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主張を支える根拠について検討し、説得力のある文章を書く準備をしよう。</p> </div>		
展開 35分	<p>3 同じ立場の者でグループを作り、選んだ情報と構成の工夫について検討する。</p> <p>4 検討結果を発表する。</p> <p>5 構成案の再検討をする。</p>	<p>【書くこと】 主張を支える根拠となる資料を引用し、工夫して構成案を編集している。 (構成メモ) ・主張を支える根拠となる情報が適切に引用されている。</p> <p>・立場と主張、それを支える根拠を明らかにして発表している。</p> <p>【関心・意欲・態度】 より説得力のある意見文になるように活発に意見を交流している。 (話し合いの内容) ・①より⑤の情報のほうが根拠として適切など</p>	<p>3 それぞれの情報を短冊として用意する。短冊を実際に動かして話し合いを進め、文章構成の変容を視覚的に確かめながら検討させる。</p> <p>4 異なる立場のグループの代表者に、検討した結果を発表させる。自分たちとの共通点や相違点に注意させる。</p> <p>5 構成のしかたや根拠の妥当性について練り直しをさせる。</p>
終末 10分	<p>6 学習のまとめをする。(振り返り・自己評価)</p> <p>7 次時の学習の見通しを持つ。</p>	<p>(記述例) ・話し合いを通してどの情報が根拠として適切か考えられた。 ・短冊を動かしながら考えたので構成案がまとめやすかった。</p>	<p>6 学習を通して学んだことを書かせ、発表させる。</p> <p>7 意見文を書くことを</p>

予告する。